

科目名	社会保障論	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学部	□必修	■選択
			学部	□必修	□選択
英文表記	Social Security	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中		
ふりがな	たにがわ このの	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	谷川 琴乃	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	社会保障制度の経済学的基礎を理解し、現代の社会保障政策の課題を経済学的視点から分析する。				
到達目標	1. 社会保障制度の基本的な仕組みを理解する。 2. 社会保障と経済の関係を説明できる。 3. 少子化や高齢化など、現代の社会保障制度が直面する課題について考察できる。				
授業概要	本授業では、社会保障制度を経済学的視点から理論的に分析し、その意義や制度設計上の課題を検討します。効率性と公平性の観点から、社会保障の役割を考察し、世代間の資源配分、所得再分配、労働供給への影響といった経済学的側面を体系的に学びます。講義を中心に進めつつ、テキストの理論に基づいて具体的な政策事例を検討し、データや数値モデルを活用しながら社会保障制度の持続可能性について考察します。				
授業計画					
第1回	社会保障とは何かー社会保障の定義、基本的な考え方、政府の役割、効率性と公平性				
第2回	マクロ経済から見た社会保障ー社会保障給付と財源、国民経済計算における社会保障、世代会計				
第3回	所得格差と所得再分配ー所得格差の測定方法、ジニ係数、再分配政策の意義と課題				
第4回	公的年金制度の基礎(1)ー日本の公的年金の基本的仕組み、役割、所得再分配機能				
第5回	公的年金制度の基礎(2)ー積立方式と賦課方式、制度の持続可能性、世代間の公平性				
第6回	公的年金と就業行動ー高齢者の労働供給、公的年金の影響、女性と年金制度				
第7回	医療保険の基礎理論ー医療保険制度の概要、医療サービスの特徴、モラル・ハザード				
第8回	医療制度改革の課題ー高齢化の影響、高齢者医療の改革、医療費抑制の方法				
第9回	介護保険の経済学ー介護サービスと介護保険、制度の仕組みと課題、今後の方向性				
第10回	貧困と低所得層支援ー貧困の測定方法、生活保護、負の所得税、新たな支援策				
第11回	少子化と子育て支援ー少子化の背景、子育て支援政策、子供の貧困と対応策				
第12回	社会保障の基本問題ーセーフティネットの再構築、社会保障給付の上限、将来世代への影響				
第13回	社会保障の持続可能性ー高齢化による財政負担、税と社会保障のバランス、改革の選択肢				
第14回	各国の社会保障制度との比較ー海外の年金・医療・介護制度と日本の比較、示唆と課題				
第15回	総括ーこれまでの学習内容の整理、今後の社会保障のあり方について				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	事前学習：各回の授業前に指定されたテキストの該当部分を読んでおく。(1.5時間程度) 事後学習：提出された演習問題に取り組み、理解を深める。(1.5時間程度) 社会保障に関する時事問題に目を通し、学んだ理論と結びつける。(0.5時間程度)				
履修条件 受講のルール	特に前提条件は設けないが、ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎を理解していることが望ましい。				
テキスト	小塩隆士、『社会保障の経済学<第4版>』，日本評論社，2013年。 ※別に資料を配布する場合は、授業日までにポータルサイト上へ資料を掲載します。各自パソコン等にダウンロードするか印刷するなどして予習し、授業に持参してください。				
参考文献・資料	講義内で適宜紹介します。				

成績評価の方法	授業態度(10%)、課題(30%)、定期試験(60%) 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 (10:40～12:10) 木曜日 (10:40～12:10、13:00～14:30)
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	社会保障は私たちの生活に深く関わる重要な制度です。本講義では、制度の仕組みを学ぶだけでなく、その背景にある経済学的な視点もしっかりと身につけていきます。社会保障の課題は複雑ですが、みなさんと一緒に考えながら学びを深めていければと思います。積極的に参加して、社会保障の未来について一緒に考えていきましょう。